

横浜信用金庫の環境への取組みについて

【《よこしん》の環境方針】

環境の維持および改善に努めることは企業市民としての社会的責任であり、環境への負荷の軽減に努力することは資源を消費する企業としての当然の責務と考えています。

当金庫の主たる営業基盤である神奈川県東部は、製造業、商業、サービス業などの産業がバランスよく立地する産業構造となっています。一方、郊外の丘陵地には里山と呼ばれる緑豊かな自然が広がり、そこを水源とする河川が東京湾や相模湾に注いでいます。当金庫は、このような都市と自然が調和した地域環境の保全を図り、地球温暖化防止への取組みを推進することで、地域社会の持続的発展に貢献してまいります。

【横浜信用金庫脱炭素化宣言】

当金庫は、地球温暖化対策として脱炭素化への取組みを推進し、持続可能な社会の実現に貢献します。

1. 二酸化炭素排出量の削減

- ・2030年度までに二酸化炭素排出量を2013年度比50%以上削減する
- ・2050年度までに二酸化炭素排出量をゼロとする。（2013年度比100%削減）

※「エネルギーの使用の合理化等に関する法律」に基づく定例報告の排出量による

2. 再生可能エネルギー100電力（省エネ電力）の利用（上記1. の達成方法）

- ・2030年までに使用電力の50%以上を再エネ電力とする
- ・2050年度までに使用電力の100%を再エネ電力とする

3. 地域における取組みの推進

商品・サービスの提供を通じて、地域社会・お客さまの脱炭素化への取組みを支援します。

【環境教育イベント『親子でエコ教室』】

地球環境問題をふまえ、小学生に「エコ」について楽しく学んでもらう“環境教育イベント”を、横浜美術館と連携して平成23年より夏休みに開催しています。

環境パフォーマー『らんま先生』による“エコ実験パフォーマンスショー”で「エコ」について楽しく学んだ後、横浜美術館子どものアトリエの先生と一緒に、エコに関する創作をするプログラムとなっています。

※令和2年度～4年度については、新型コロナウイルス感染症の影響により、開催しておりません。



【再生可能エネルギー100%電力の使用】

地球温暖化防止などを念頭に、令和元年8月から関内本店にて、令和3年12月からは北新横浜事務センターにおいて再生可能エネルギー100%電力を使用しています。

《よこしん》では、さまざまな省電力・省資源への取組みを通じて、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

【横浜市水道局への寄付】

平成25年10月に「水源エコプロジェクト協定（W-eco・p）」を締結し、横浜市の水源地である山梨県道志村の森林の整備費用を毎年寄付しています。

【その他の取組み】

- ・クールビズ（5月～10月）、ウォームビズ（12月～3月）
- ・その他、省電力・省燃料・省資源等への各種取組み